

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

- For more records, click the Records link at page end.
- To change the format of selected records, select format and click Display Selected.
- To print/save clean copies of selected records from browser click Print/Save Selected.
- To have records sent as hardcopy or via email, click Send Results.

✓ Select All

✗ Clear Selections

Print/Save Selected

Send Results

Format

Display Selected

Free



1. ☐ 3/5/1 DIALOG(R)File 352:Derwent WPI (c) 2003 Thomson Derwent. All rts. reserv.

013851468 **Image available**

WPI Acc No: 2001-335681/200135

XRAM Acc No: C01-103675

Platelet activating factor antagonists comprise an extract
of Bengle, a plant of the genus Zingiber and the family Zingiberaceae

Patent Assignee: SHISEIDO CO LTD (SHIS)

Inventor: KOBAYASHI K; MAEDA K; OTA M

Number of Countries: 021 Number of Patents: 002

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
WO 200130367	A1	20010503	WO 2000JP7601	A	20001027	200135 B
JP 2001192339	A	20010717	JP 2000309061	A	20001010	200144

Priority Applications (No Type Date): JP 2000321801 A 20001020; JP 99305496
A 19991027; JP 2000309061 A 20001010

Patent Details:

Patent No Kind Lan Pg Main IPC Filing Notes

WO 200130367 A1 J 72 A61K-035/78

Designated States (National): KR US

Designated States (Regional): AT BE CH CY DE DK ES FI FR GB GR IE IT LU

MC NL PT SE

JP 2001192339 A 10 A61K-035/78

Abstract (Basic): WO 200130367 A1

NOVELTY - Platelet activating factor (PAF) antagonists comprise an
extract of Bengle, a plant of the genus Zingiber and the family
Zingiberaceae.

DETAILED DESCRIPTION - INDEPENDENT CLAIMS are also included for:

(1) PAF antagonists comprising a cyclohexene derivative of formula
(I) or (II) or a compound having a ¹³C-NMR as given in the
specification; and

(2) a dermatological preparation for preventing or relieving skin
chapping comprising an extract of Bengle, a compound (I) or (II) or a
compound having a ¹³C-NMR as given in the specification.

ACTIVITY - Dermatological; antiinflammatory.

MECHANISM OF ACTION - PAF-Antagonist.

In an assay using human platelets 0.016% Bengle extract inhibited
98% of PAF activity.

USE - As platelet activating factor antagonists useful for
preventing or relieving inflammatory and allergic dermatological
disorders such as skin chapping.

pp: 72 DwgNo 0/3

Title Terms: PLATELET; ACTIVATE; FACTOR; ANTAGONIST; COMPRISE; EXTRACT;

PLANT; GENUS; ZINGIBER; FAMILY

Derwent Class: B04; B05; D21; D22

International Patent Class (Main): A61K-035/78

International Patent Class (Additional): A61K-007/00; A61K-007/48;

A61K-031/085; A61P-007/02; A61P-017/00; A61P-043/00

File Segment: CPI

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-192339

(P2001-192339A)

(43) 公開日 平成13年7月17日 (2001.7.17)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テ-マ-ト* (参考)
A 6 1 K 35/78		A 6 1 K 35/78	C 4 C 0 8 3
7/00		7/00	K 4 C 0 8 8
7/48		7/48	
A 6 1 P 17/00		A 6 1 P 17/00	
43/00	1 0 7	43/00	1 0 7
審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 10 頁)			

(21) 出願番号 特願2000-309061 (P2000-309061)
(22) 出願日 平成12年10月10日 (2000.10.10)
(31) 優先権主張番号 特願平11-305496
(32) 優先日 平成11年10月27日 (1999.10.27)
(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(71) 出願人 000001959
株式会社資生堂
東京都中央区銀座7丁目5番5号
(72) 発明者 前田 憲寿
神奈川県横浜市都筑区早渕2-2-1 株
式会社資生堂リサーチセンター (新横浜)
内
(72) 発明者 大田 正弘
神奈川県横浜市都筑区早渕2-2-1 株
式会社資生堂リサーチセンター (新横浜)
内
(74) 代理人 100090527
弁理士 館野 千恵子

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 血小板活性化因子拮抗剤

(57) 【要約】

【課題】 血小板活性化因子 (platelet activating factor, P A F) 拮抗作用に優れ、P A F 拮抗作用に基づく炎症性・アレルギー性疾患の改善・予防に優れた効果を奏することが期待されると共に、肌荒れ改善作用に優れ、種々の皮膚疾患、肌荒れ、荒れ性等の改善・予防に優れた効果を有する血小板活性化因子拮抗剤を提供する。

【解決手段】 ショウガ (Zingiberaceae) 科ジンギバ一 (Zingiber) 属植物のベングル (ブングレ、インドネシア名: Bengile) の抽出物を有効成分として配合する。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ショウガ (Zingiberaceae) 科ジンギバー (Zingiber) 属植物のベングル (ブングレ、インドネシア名: Bengle) の抽出物を有効成分として含有することを特徴とする血小板活性化因子 (platelet activating factor, PAF) 拮抗剤。

【請求項2】 ショウガ (Zingiberaceae) 科ジンギバー (Zingiber) 属植物のベングル (ブングレ、インドネシア名: Bengle) の抽出物を有効成分として配合することを特徴とする肌荒れ防止・改善用皮膚外用剤。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は血小板活性化因子 (platelet activating factor, PAF) 拮抗剤、およびアトピー性皮膚炎、接触性皮膚炎、湿疹、乾癬等の種々の皮膚疾患による肌荒れ症状の他、健康人の肌あれ、荒れ性に対して改善・予防効果を有する肌荒れ防止・改善用皮膚外用剤に関する。

【0002】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】 従来、アトピー性皮膚炎、接触性皮膚炎、湿疹、乾癬等の皮膚疾患による肌荒れ症や健康人の肌あれ、荒れ性に対して改善・予防効果を有する皮膚外用剤の有効成分としては、抗炎症効果のあるステロイド剤や保湿作用のあるワセリン、尿素、ヘパリン、各種アミノ酸、脂質類が用いられてきた。しかしながら、ステロイド剤は副作用が強く、また保湿剤はその効果が必ずしも十分ではなく、より安全性の高い優れた有効成分の開発が望まれていた。

【0003】 一方、種々の炎症性・アレルギー性皮膚疾患や肌荒れの発症に PAF が関与していることが明らかにされつつある。例えば、炎症性異常角化性疾患である乾癬では、その患部表皮において高い PAF の存在が認められている。また、アレルギー性皮膚疾患であるアトピー性皮膚炎や接触性皮膚炎、湿疹にも PAF の関与が示唆されている。また PAF は、角質形成など表皮の正常な角化過程においても重要な役割を果たしていると考えられており、肌あれの改善薬あるいは皮膚疾患の治療薬として、PAF 拮抗剤を用いる試みがなされるようになってきている。

【0004】

【課題を解決するための手段】 このような現況に鑑み、本発明者らは PAF 拮抗物質が様々な炎症性・アレルギー性皮膚疾患や健康人の肌あれ、荒れ性等の改善に有効であると考え、広く種々の物質について PAF 拮抗作用を調べた結果、ショウガ (Zingiberaceae) 科ジンギバー (Zingiber) 属植物であるベングル (ブングレ、インドネシア名: Bengle) の抽出物に強い PAF 拮抗作用があることを見出した。また、当該植物抽出物が、紅斑、落屑、乾燥、湿疹、痒み等を伴う肌あれを改善すること

ができるという知見を新たに見出した。

【0005】 すなわち本発明は、ショウガ (Zingiberaceae) 科ジンギバー (Zingiber) 属植物のベングル (ブングレ、インドネシア名: Bengle) の抽出物を有効成分として含有することを特徴とする血小板活性化因子 (platelet activating factor, PAF) 拮抗剤、並びに上記抽出物を有効成分として配合することを特徴とする肌荒れ防止・改善用皮膚外用剤である。

【0006】 ブングレの抽出物に PAF 拮抗作用があるという報告はこれまでになく、PAF 拮抗作用に基づく炎症性・アレルギー性皮膚疾患治療薬や肌荒れ防止・改善用皮膚化粧料への応用も全く知られていない。また、他のショウガ (Zingiberaceae) 科ジンギバー (Zingiber) 属の植物が PAF 拮抗作用を有するという報告もこれまでにない。

【0007】 以下、本発明の構成について詳述する。本発明に用いられるベングル (ブングレ、インドネシア名: Bengle、学名: Zingiber purpureum Roxb.) は、東南アジア、特にインドネシアなどの熱帯・亜熱帯地方にはえる植物である。学名の詳細な調査から、ベングル (ブングレ) は学名が Zingiber purpureum Roxb. あるいは Zingiber cassumunar と称されており、Zingiber purpureum Roxb. と Zingiber cassumunar は、シノニム (Synonym) の関係になることがわかった。本明細書中、ジンギバー (Zingiber) 属と記載しているものは、ショウガ (Zingiber) 属とも称される。

【0008】 本発明に用いられる抽出物の抽出方法は特に限定されず、ベングル (ブングレ) の根、根茎、茎、葉、花、果実等の原料または植物全草を抽出溶媒に浸漬し、これを室温で、または加温下で抽出し、濾過して得られた抽出液をそのまま用いても良いが、必要により濃縮あるいは減圧乾固したものを用いても良い。さらにこれらの抽出液または抽出物をカラム等を用いて精製して用いることもできる。

【0009】 抽出溶媒は特に限定されず、例えば抽出溶媒として、水、メチルアルコール、エチルアルコール等の一級アルコール、1, 3-ブチレングリコール、プロピレングリコール等の多価アルコール、酢酸エチルエステル等の低級アルキルエステル、ベンゼン、ヘキサン等の炭化水素、エチルエーテル、アセトン等の公知の溶媒を用いる方法が用いられ、これらの溶媒は一種または二種以上を組み合わせ使用することができる。好ましい抽出溶媒としては、水、エチルアルコールの水溶液、1, 3-ブチレングリコールの水溶液が挙げられる。

【0010】 本発明におけるベングル抽出物の配合量は、外用剤全量中、乾燥固形物として 0.005 ~ 20.0 重量%、好ましくは 0.01 ~ 10.0 重量%である。0.005 重量%未満であると、本発明でいう効果が十分に発揮されず、20.0 重量%を超えて配合しても効果の増加は実質上望めないし、皮膚外用剤への配

合も難しくなる傾向にある。

【0011】本発明のPAF拮抗剤は、肌荒れ防止・改善用皮膚外用剤の他に、PAFが関与する疾患、例えば炎症性異常角化性疾患である乾癬、アレルギー性皮膚疾患であるアトピー性皮膚炎や接触性皮膚炎、湿疹等の症状の改善や防止への応用が可能である。

【0012】PAFは細胞膜のリン脂質からホスホリパーゼやアセチル転移酵素などの代謝酵素の働きにより産生される脂質メディエーターの一つであり、主にマスト細胞、好中球、単球などの炎症性細胞で産生される。PAFは炎症やアレルギー性の好酸球遊走や炎症性サイトカインの産生、細胞の増殖・分化、アポトーシスに関与していることが報告されており、PAF拮抗剤はPAFに対して拮抗的にその受容体との結合を阻害することによって、PAFが関与する疾患、症状の改善や防止に有効である。

【0013】本発明の皮膚外用剤には、上記必須成分以外に、通常化粧品や医薬品等の皮膚外用剤に用いられる成分、例えば、美白剤、保湿剤、酸化防止剤、油性成分、紫外線吸収剤、界面活性剤、増粘剤、アルコール

類、粉末成分、色材、水性成分、水、各種皮膚栄養剤等を必要に応じて適宜配合することができる。

【0014】その他、エデト酸二ナトリウム、エデト酸三ナトリウム、クエン酸ナトリウム、ポリリン酸ナトリウム、メタリン酸ナトリウム、グルコン酸等の金属封鎖剤、クエン酸、グリコール酸、乳酸、サリチル酸、亜硫酸ナトリウム、カフェイン、タンニン、パントテン酸およびその誘導体、ニコチン酸およびその誘導体、トラネキサム酸およびその誘導体、甘草抽出物、グラブリジン、マロニエ、エスシン等の各種植物抽出物、ビタミンEおよび酢酸トコフェロール等のビタミンE誘導体、グリチルリチン酸およびその誘導体またはその塩等の薬剤、胎盤抽出液、アスコルビン酸およびアスコルビン酸リン酸マグネシウム、アスコルビン酸グルコシド等のアスコルビン酸誘導体、アルブチン、コウジ酸、エラグ酸、カミツレ油、4-n-ブチルレゾルシノール等の美白剤、ビタミンAおよびレチノール等のビタミンA誘導体、グルコース、フルクトース、キシリトール、マンノース、ショ糖、トレハロース等の糖類、ワセリン、グリセリン、尿素、ヘパリン等の保湿剤、セリン、アルギニン等の各種アミノ酸、セラミド、コレステロール等の脂質なども適宜配合することができる。

【0015】本発明の皮膚外用剤とは、医薬品、医薬部外品、化粧品を指し、例えば軟膏、クリーム、乳液、ロ

ーション、パック、浴用剤等、従来皮膚外用剤に用いるものであればいずれでもよく、剤型は特に問わない。

【0016】

【実施例】次に実施例によって本発明をさらに詳細に説明する。なお、本発明はこれにより限定されるものではない。配合量は重量%である。また、植物抽出物は全て乾燥固形分換算である。実施例に先立ち、本発明の植物抽出物のPAF拮抗作用および肌荒れ改善効果に関する試験方法とその結果について説明する。

10 【0017】1. PAF拮抗作用試験

PAF拮抗作用をPAFによる血小板凝集に対する抑制効果で評価した。

【0018】(1) 試料の調製

ベンガル (インドネシア名: Bengale) の根および根茎部分50gを室温で1週間エタノールに浸漬し、抽出液を濃縮し、エタノール抽出物2.7gを得た。この固形物を再びジメチルスルホキシドに溶解し、2.0%溶液、0.2%溶液、0.02%溶液を作成した。これを用いて以下の実験を行った。

20 【0019】(2) PAF拮抗作用の測定

ヒト血液を室温にて1100rpmで20分間遠心し、多血小板血漿 (PRP) を分取した後、さらに3000rpmで5分間遠心して乏血小板血漿 (PPP) を分取した。PRP 223μLを37℃にて予備加温した後、所定の濃度の被験物質または溶媒を2μL添加し、さらに2分間37℃でインキュベートした後、凝集誘発物質PAFを25μL添加した。惹起された凝集は、アグリゴメーター (MCMヘマトレーサー MCMメディカル株式会社) を用いて測定し、被験試料の最大凝集率 (PPPの値を100として被験試料の凝集曲線より求められた最大値) を溶媒対照群の最大凝集率と比較することにより、被験物質のPAF惹起血小板凝集に対する抑制作用を評価した。その結果を表1に示した。

【0020】また、参考例として、すでに肌荒れに対する適用が知られている植物であるショウガ (Zingiberaceae) 科のクニ (インドネシア名: Kunyit、学名: Curcuma domestica) およびショウガ (Zingiberaceae) 科のルムプヤン (インドネシア名: Lempuyang、学名: Zingiber aromaticum Val.) のエタノール抽出物、ならびに

40 PAF拮抗作用のあることが知られているヒキオコシ (学名: Isodon japonicus Hara) についても上記と同様の試験を行った。その結果を併せて表1に示す。

【0021】

【表1】

被験物質	試料濃度	PAF誘発血小板凝集抑制率 (%)
ベンガル	0.016%	98
	0.008%	52
	0.004%	20

クニ	0.016%	3
ルムブヤン	0.016%	0
ヒキオコシ	0.016%	25
	0.008%	0

【0022】2. 肌荒れ改善効果試験

(1) 実使用試験

本発明に係わる外用剤の外皮適用による効果を、肌荒れ(紅斑・落屑・乾燥・湿疹・痒み)とカミソリ負けに対する改善率、ならびに皮膚刺激性から評価した。

【0023】肌荒れで悩む60名の女性パネルの顔面を用い、表2に示す組成(重量%)のローションのうち、左右どちらか一方の頬に試料を、他方の頬に对照を1日2回、2週間塗布し、その後の肌状態を目視で判定した。またカミソリ負けする30名の男性パネルを対象に、ひげ剃り直後に表2に示す組成のローションを塗布し、カミソリ負けに対する効果を判定した。各判定基準は以下の通りとした。

【0024】試料としては、本発明品として、ベングルメタノール抽出物の濃度を変えたものを2種、比較品として、すでに肌荒れに対する適用が知られている植物であるショウガ(Zingiberaceae)科のクニ(インドネシア名:Kunyit、学名:Curcuma domestica)およびショウガ(Zingiberaceae)科のルムブヤン(インドネシア名:Lempuyang、学名:Zingiber aromaticum Val.)のメタノール抽出物を配合したものを用いた。その結果を併せて表2に示す。

【0025】①肌荒れに対する改善効果の判定基準

著効:症状の消失したもの。

有効:症状の弱くなったもの。

やや有効:症状がやや弱くなったもの。

無効:症状に変化を認めないもの。

【0026】②カミソリ負けに対する改善効果の判定基準

著効:カミソリ負けの消失したもの。

有効:カミソリ負けの弱くなったもの。

10 やや有効:カミソリ負けがやや弱くなったもの。

無効:カミソリ負けに変化を認めないもの。

【0027】③肌荒れ及びカミソリ負けに対する改善効果

◎:被験者が著効、有効及びやや有効を示す割合(有効率)が80%以上。

○:被験者が著効、有効及びやや有効を示す割合(有効率)が50%以上~80%未満。

△:被験者が著効、有効及びやや有効を示す割合(有効率)が30%以上~50%未満。

20 ×:被験者が著効、有効及びやや有効を示す割合(有効率)が30%未満。

【0028】④皮膚刺激性

◎:肌にヒリヒリ感を認めた被験者の割合が0%。

○:肌にヒリヒリ感を認めた被験者の割合が0%を超え、5%未満。

△:肌にヒリヒリ感を認めた被験者の割合が5%以上、10%未満。

×:肌にヒリヒリ感を認めた被験者の割合が10%以上。

30 【0029】

【表2】

試料	本発明品		比較品	
	1	2	1	2
ベングルメタノール抽出物	1.0	0.2	—	—
クニメタノール抽出物	—	—	1.0	—
ルムブヤンメタノール抽出物	—	—	—	1.0
グリセリン	10.0	10.0	10.0	10.0
1, 3-ブチレングリコール	4.0	4.0	4.0	4.0
エタノール	7.0	7.0	7.0	7.0
ポリオキシエチレン (20モル) オレイルアルコール	0.5	0.5	0.5	0.5
精製水	残余	残余	残余	残余
肌荒れ改善効果	◎	○	△	△
カミソリ負け防止効果	◎	○	△	△
皮膚刺激性	◎	◎	○	△

【0030】表2から明らかなように、ベンゲル抽出物を配合した本発明品の試料は、比較品の試料よりも肌荒れ、カミソリ負けに対して優れた改善効果を示し、さらに皮膚刺激性も認められなかった。

【0031】(2)レプリカ法による実使用試験
本発明品1, 2と比較品1, 2のローションを用いて、人体パネルで肌荒れ改善効果試験を行った。即ち、女性健常人(顔面)の皮膚表面形態をレプリカ法を用いて肌のレプリカを採り、顕微鏡(17倍)にて観察した。皮

紋の状態及び角層の剥離状態から、表3に示す基準に基づいて肌荒れ評価が1または2と判断されたもの(肌荒れパネル)20名を用い、顔面左右半々に、本発明品1, 2と比較品1, 2のローションを1日2回、2週間塗布した。2週間後、再び上述のレプリカ法に従って肌の状態を観察し、表3の判定基準にしたがって評価した。その結果を表4に示す。

【0032】

【表3】

評点	評点の基準
1	皮溝、皮丘の消失、広範囲の角層のめくれが認められる。
2	皮溝、皮丘が不鮮明、角層のめくれが認められる。
3	皮溝、皮丘は認められるが、平坦。
4	皮溝、皮丘が鮮明。
5	皮溝、皮丘が鮮明で整っている。

【0033】

20 【表4】

レプリカ評価	本発明品 1	本発明品 2	比較品 1	比較品 2
1	0	0	1	0
2	0	0	4	5
3	5	9	13	11
4	10	9	2	4
5	5	2	0	0

【0034】表4から分かるように、本発明品のローションは比較品のローションと比較して、顕著な肌荒れ改

30 善効果が認められた。

【0035】

実施例1 クリーム

(処方)

ステアリン酸	5.0	重量%
ステアリルアルコール	4.0	
イソプロピルミリステート	18.0	
グリセリンモノステアリン酸エステル	3.0	
プロピレングリコール	10.0	
ベンゲルメタノール抽出物	0.01	
苛性カリ	0.2	
亜硫酸水素ナトリウム	0.01	
防腐剤	適量	
香料	適量	
イオン交換水	残余	

(製法)イオン交換水にプロピレングリコールとベンゲルメタノール抽出物と苛性カリを加え溶解し、加熱して70℃に保つ(水相)。他の成分を混合し加熱融解して70℃に保つ(油相)。水相に油相を徐々に加え、全部

加え終わってからしばらくその温度に保ち反応を起こさせる。その後、ホモキサーで均一に乳化し、よくかきまぜながら30℃まで冷却する。

【0036】

実施例2 クリーム

(処方)

ステアリン酸	2.0 重量%
ステアリルアルコール	7.0
水添ラノリン	2.0
スクワラン	5.0
2-オクチルドデシルアルコール	6.0
ポリオキシエチレン (25 モル)	
セチルアルコールエーテル	3.0
グリセリンモノステアリン酸エステル	2.0
プロピレングリコール	5.0
ベングルエタノール抽出物	0.05
亜硫酸水素ナトリウム	0.03
エチルパラベン	0.3
香料	適量
イオン交換水	残余

(製法) イオン交換水にプロピレングリコールを加え、加熱して 70℃ に保つ (水相)。他の成分を混合し加熱融解して 70℃ に保つ (油相)。水相に油相を加え予備

乳化を行い、ホモミキサーで均一に乳化した後、よくかきまぜながら 30℃ まで冷却する。

【0037】

実施例 3 クリーム

(処方)

固形パラフィン	5.0 重量%
ミツロウ	10.0
ワセリン	15.0
流動パラフィン	41.0
グリセリンモノステアリン酸エステル	2.0
ポリオキシエチレン (20 モル)	
ソルビタンモノラウリン酸エステル	2.0
石けん粉末	0.1
硼砂	0.2
ベングルアセトン抽出物	0.05
ベングルエタノール抽出物	0.05
亜硫酸水素ナトリウム	0.03
エチルパラベン	0.3
香料	適量
イオン交換水	残余

(製法) イオン交換水に石けん粉末と硼砂を加え、加熱溶解して 70℃ に保つ (水相)。他の成分を混合し加熱融解して 70℃ に保つ (油相)。水相に油相をかきまぜながら徐々に加え反応を行う。反応終了後、ホモミキサ

ーで均一に乳化し、乳化後よくかきまぜながら 30℃ まで冷却する。

【0038】

実施例 4 乳液

(処方)

ステアリン酸	2.5 重量%
セチルアルコール	1.5
ワセリン	5.0
流動パラフィン	10.0
ポリオキシエチレン (10 モル)	
モノオレイン酸エステル	2.0
ポリエチレングリコール 1500	3.0
トリエタノールアミン	1.0
カルボキシビニルポリマー	0.05

(商品名: カーボボール 941, B.F. Goodrich Chemical company)

ベンガル酢酸エチルエステル抽出物	0.01
亜硫酸水素ナトリウム	0.01
エチルパラベン	0.3
香料	適量
イオン交換水	残余

(製法) 少量のイオン交換水にカルボキシビニルポリマーを溶解する(A相)。残りのイオン交換水にポリエーレングリコール1500とトリエタノールアミンを加え、加熱溶解して70℃に保つ(水相)。他の成分を混合し加熱融解して70℃に保つ(油相)。水相に油相を 10

加え予備乳化を行い、A相を加えホモミキサーで均一に乳化し、乳化後よくかきまぜながら30℃まで冷却する。

【0039】

実施例5 乳液

(処方)

マイクロクリスタリンワックス	1.0 重量%
密ロウ	2.0
ラノリン	20.0
流動パラフィン	10.0
スクワラン	5.0
ソルビタンセスキオレイン酸エステル	4.0
ポリオキシエチレン(20モル)	
ソルビタンモノオレイン酸エステル	1.0
プロピレングリコール	7.0
ベンガルアセトン抽出物	10.0
亜硫酸水素ナトリウム	0.01
エチルパラベン	0.3
香料	適量
イオン交換水	残余

(製法) イオン交換水にプロピレングリコールを加え、加熱して70℃に保つ(水相)。他の成分を混合し、加熱融解して70℃に保つ(油相)。油相をかきまぜなが

らこれに水相を徐々に加え、ホモミキサーで均一に乳化する。乳化後よくかきまぜながら30℃まで冷却する。

【0040】

実施例6 ゼリー

(処方)

95%エチルアルコール	10.0 重量%
ジプロピレングリコール	15.0
ポリオキシエチレン(50モル)	
オレイルアルコールエーテル	2.0
カルボキシビニルポリマー	1.0
(商品名: カーボボール940, B.F. Goodrich Chemical company)	
苛性ソーダ	0.15
L-アルギニン	0.1
ベンガル50%エタノール水溶液抽出物	7.0
2-ヒドロキシ-4-メトキシ	
ベンゾフェノンスルホン酸ナトリウム	0.05
エチレンジアミンテトラアセテート・	
3ナトリウム・2水	0.05
メチルパラベン	0.2
香料	適量
イオン交換水	残余

(製法) イオン交換水にカーボボール940を均一に溶解し、一方、95%エタノールにベンガル50%エタノール水溶液抽出物、ポリオキシエチレン(50モル)オ

レイルアルコールエーテルを溶解し、水相に添加する。次いで、その他の成分を加えたのち苛性ソーダ、L-アルギニンで中和させ増粘する。

【0041】

実施例7 美容液

(処方)

(A相)

エチルアルコール (95%) 10.0 重量%

ポリオキシエチレン (20モル)

オクチルドデカノール 1.0

バントテニールエチルエーテル 0.1

ベングルメタノール抽出物 1.5

メチルバラベン 0.15

(B相)

水酸化カリウム 0.1

(C相)

グリセリン 5.0

ジプロピレングリコール 10.0

亜硫酸水素ナトリウム 0.03

カルボキシビニルポリマー 0.2

(商品名: カーボボール940, B.F. Goodrich Chemical company)

精製水 残余

(製法) A相、C相をそれぞれ均一に溶解し、C相にA 20 行う。

相を加えて可溶化する。次いでB相を加えたのち充填を 【0042】

実施例8 バック

(処方)

(A相)

ジプロピレングリコール 5.0 重量%

ポリオキシエチレン (60モル) 硬化ヒマシ油 5.0

(B相)

ベングルメタノール抽出物 0.01

オリーブ油 5.0

酢酸トコフェロール 0.2

エチルバラベン 0.2

香料 0.2

(C相)

亜硫酸水素ナトリウム 0.03

ポリビニルアルコール 13.0

(ケン化度90、重合度2,000)

エタノール 7.0

精製水 残余

(製法) A相、B相、C相をそれぞれ均一に溶解し、A たのち充填を行う。

相にB相を加えて可溶化する。次いでこれをC相に加え 40 【0043】

実施例9 固形ファンデーション

(処方)

タルク 43.1 重量%

カオリン 15.0

セリサイト 10.0

亜鉛華 7.0

二酸化チタン 3.8

黄色酸化鉄 2.9

黒色酸化鉄 0.2

スクワラン 8.0

イソステアリン酸	4.0
モノオレイン酸P O Eソルビタン	3.0
オクタン酸イソセチル	2.0
ベングルエタノール抽出物	0.5
防腐剤	適量
香料	適量

(製法) タルク～黒色酸化鉄の粉末成分をブレンダーで十分混合し、これにスクワラン～オクタン酸イソセチルの油性成分、ベングルエタノール抽出物、防腐剤、香料

を加え良く混練した後、容器に充填、成型する。

【0044】

実施例10 乳化型ファンデーション(クリームタイプ)

(処方)

(粉体部)

二酸化チタン	10.3	重量%
セリサイト	5.4	
カオリン	3.0	
黄色酸化鉄	0.8	
ベンガラ	0.3	
黒色酸化鉄	0.2	

(油相)

デカメチルシクロペンタシロキサン	11.5
流動パラフィン	4.5
ポリオキシエチレン変性ジメチルポリシロキサン	4.0

(水相)

精製水	50.0
1,3-ブチレングリコール	4.5
ベングルエタノール抽出物	1.5
ソルビタンセスキオレイン酸エステル	3.0
防腐剤	適量
香料	適量

(製法) 水相を加熱攪拌後、十分に混合粉碎した粉体部を添加してホモキサー処理する。更に加熱混合した油相を加えてホモキサー処理した後、攪拌しながら香料を添加して室温まで冷却する。

【0045】

【発明の効果】以上説明したように、本発明はP A F拮

30 抗作用に優れ、P A F拮抗作用に基づく炎症性・アレルギー性疾患の改善・予防に優れた効果を奏することが期待される。また本発明の肌荒れ防止・改善用皮膚外用剤は、肌荒れ改善作用に優れ、種々の皮膚疾患、肌荒れ、荒れ性等の改善・予防に優れた効果を有するものであると共に、安全性にも優れたものである。

フロントページの続き

Fターム(参考) 4C083 AA111 AA112 AA122 AB032
AB212 AB232 AB242 AB272
AB362 AB432 AB442 AC022
AC062 AC102 AC122 AC182
AC242 AC352 AC422 AC442
AC482 AC532 AC542 AC582
AC642 AC792 AD092 AD112
AD162 AD172 AD512 AD662
CC01 CC04 CC05 CC07 CC12
DD23 DD27 DD31 DD41 EE12
EE13
4C088 AB81 AC03 AC04 AC05 AC13
BA09 BA10 CA05 CA06 CA07
CA11 CA14 MA07 MA63 NA14
ZA89 ZB22 ZC48